

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800283		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ東		
所在地	兵庫県神戸市垂水区美山台2丁目8番2号		
自己評価作成日	平成30年1月23日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JivgyosyoCd=2890800283-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地の中にあるグループホームであり、近くには池があり様々な鳥が見られる。高台にある当施設からは、明石海峡大橋まで一望できる景色がある。隣には保育所があり小さな子供たちの賑やかな声も響いてくる。近隣には小学校もあり、地域の子供たちも当施設の夏祭りには遊びにきたりいい関係づくりが出来ている。1Fも2Fのご入居者様もご自分のペースで落着いて生活されている。当施設の職員も穏やかでありながらも行事や外出にも力を入れており、ご入居者様を常に楽しく笑顔を引き出せるよう努力している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の公募で決められた「笑顔」をキーワードに、スタッフが常に笑顔で接することが出来ることを心がけており、施設内に掲げ、朝礼でも確認するなど、利用者・スタッフお互いが気持ちよく過ごせる事を目標とし、笑顔テーマとした研修も実施するなど、積極的に実践している。リクリエーションには、ありきたりではない、笑顔を引き出すための努力と工夫を行っており、職員の手作り小物や小道具の工夫で、通常のイベントでも独自の楽しめるイベントに仕立て上げるなど、利用者とのかわり、笑顔を念頭とした運営がなされている。利用者自立度の維持にも留意し、利用者個々の状態に応じた、一律ではない、自立度維持を念頭に置いた支援が行われている。周囲の散歩等も積極的に行い、自立度維持を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念とは別に職員から公募した、たるみ東独自の理念がある。「気が付けばそこに笑顔がある。」その理念から通ずるものとして「笑顔」をテーマにしたあいさつ研修を実施した。	法人の理念とは別に、職員から公募したテーマを基に設定した「笑顔」を、事業所の理念としている。笑顔により、職員同士のモチベーションアップにもつなげており、利用者職員共に笑えるような、日々の支援につなげている。職員同士、利用者共に、一緒に楽しめて笑える状態を意識し、継続している。法人の理念である「自分自身が受けた介護」など、利用者本位の理念を踏まえた上で、笑いによる日々の笑顔を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	美山台の自治会へ参加 地域の回覧を届けて頂いている。また地域で行う、もちつき大会等にも声をかけさせて頂き利用者様と参加させて頂いている。	日常的に、近辺の散歩をし、顔の見える関係を心がけている。運営推進会議には、自治会のブロック長さんにも参加いただき、また自治会の会合にも事業所から参加している。自治会長の協力で、事業所行事の広報が、地域内に回覧されるなど、自治会との良好な関係性が見受けられた。事業所の夏祭りには、地域の方々も事業所を訪れ参加されている。地域の方々への事業所見学実施も確認できた。地域の方がボランティアがリコーダー演奏に訪れたり、近隣の子どもたちが事業所に遊びに来るなど、積極的な地域への事業所開放が見受けられた。	自治会とのつながりは良好であるので、今後は、より幅広い地域活動を展開されることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、運営推進会議の場で認知症の対応等の話す機会があり、包括の役割等の説明して頂けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を通じてサービス内容を報告 話し合いの場として活かした取組みを行っている。	出席メンバーは、利用者・利用者家族・あんしんすこやかセンター・自治会長・自治会ブロック班長・近隣事業所が出席している。利用者家族は固定メンバーにせず、全てのご家族に開催参加案内を行っている。会議では、事故報告を含め、施設の情報開示を意識した報告を行っている。自治会長から、地域の行事案内や様子などの報告がある。地域との防災連携についての話し合いも行われている。報告に偏らず、いろいろな対話ができるように配慮した、話題の提供など、双方向の話し合いを意識した会議運営がなされている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本社の品質向上専門部署が窓口となり市町村への対応や市町村との交流を行い情報共有を行っている。各事業所へ必要な内容は発信し積極的に関係を築いてくれている。	垂水区との間で生活保護等についての連携事例が確認できた。日常業務に関する連携は、本社窓口が担当となり事業所へフィードバックし活用している。あんしんすこやかセンターとは、運営推進会議では毎回異なる方が出席されるなど、顔なじみの関係構築に努められ、地域支援会議等への参加などが行われている。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について会社の方針であるがいつでも開錠できるように職員に指導している。又、電子錠を開けたい時は、職員にいつでも声をかけて頂くように張り紙をしている。	虐待と拘束についてとして、事業所内で研修が行われている。研修については、内部研修報告書で、職員が理解したこと気づいたことを文書にし報告している。高齢者虐待・身体拘束防止テキストを、事業所内複数箇所へ配置している。安全対策上、玄関施錠は行われているが、利用者が出たい場合はすぐに職員が開場し外出可能な状態になっている。玄関には「職員にお声がけ下さい」の掲示もあり、制限無く外出可能な状態になっている。日々の気付きはカンファレンスノートに記載されており、カンファレンス時にそのノートを基に、不適切な支援が発生しないよう、事例や出来事を改善事例につなげている。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員入社時と、年に1回以上研修を行っている。また事業所内での部会による研修も行っている。また職員間同士で研修内容を共有することで防止につとめている。	職員に、ストレスマネジメント、やアンガーマネジメント（怒りに対するコントロール対処）を行うなど、事業所内で積極的に取り入れ、取り組まれている。心理的な負担が虐待に繋がるので、事業所理念である「笑顔」によって、利用者職員共にストレスのたまらない支援を行うことが心がけられている。月に1回職員面談で、職員の心理状態を確認し、聞き取りなどによって、ストレスの軽減や蓄積しないように努めている。日々の支援の中で、職員同士が、互いに気づいたことをその場で言えるような関係づくりがなされている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を年1回以上設けていて事業所内の職員がいつでも見れる場所に資料を置いている。	神戸安心サポートセンターによる財産管理や、成年後見制度利用者も複数在籍し、後見人やサポートセンターとの相談や連携で、利用者支援が行われている。成年後見人制度事例集が事業所内複数に設置され、職員はいつでも確認することが出来るようになっている。玄関にもパンフレットが設置されている。権利擁護に対する外部講師を招聘した事業所内研修も実施されている。	制度の活用や理解は促進されているが、実際に制度を運用する際、様々な問題があるので、それらについて深めていくことが望まれる。

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様が困惑されないように、説明不足にならないように事前に理解 納得を図るようなアプローチをしている。	出来ること出来ないことを明確にし、細かく理解して頂けるよう、時間をかけて理解し合えるまで説明を実施している。利用者に対しても、嘘やごまかしではなく、ご家族からも嘘やごまかしではない、利用者の同意で利用開始となるよう、ご家族にもお願いしている。出来ること出来ないことでは、重度化や状態変化に応じた支援の限界や、状態に応じた適切な支援の実施が、利用者の利益であるということも説明し、理解を得てから契約されている。改定時等は、全ての家族に送付した上で、個別に説明を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見 ご要望をお聞きし反映させて頂いている。職員への投げかけ、反映も毎回行っている。その頂戴した意見は運営推進会議の場で発表させて頂いている。	運営推進会議開催時は、毎回、全ての家族に開催案内と出席案内をお願いし、意見聴取や交流を図ることによって要望や意見の把握が行われている。年に1回「ファミリークラブ」(家族会)を開催し、お茶会をしながら家族との意見交流や要望聴取を行っている。ファミリークラブでは、説明のみにならないよう、出席した家族からの発言を重視し、しゃべって頂く事を重点配分している。家族会からの意見を受け、利用者行事への家族参加の促進に繋がられた事例が確認できた。常に行事等は、家族に開催案内参加案内がなされている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の時間を設け職員が困っていることや悩みをお聞きし、相談や意見交換 提案などを行っている。又 管理者と本社で月1面談も実施している。	月1回業務に関する職員会議が行われ、意見交換がなされている。職員の意見を基に、利用者支援の強化のため、職員の勤務シフト時間帯の変更が行われた事例が確認できた。月1回、職員面談を行い、職員の心理状態の把握に努めると共に、個別職員がやりたいことを聴取し、それを基に、支援や環境改善に繋がった事例が確認できた。カンファレンスノートを活用し、意見や要望、気付きなど、支援改善・業務改善に繋げるための、意見・情報収集の仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度や目標設定を行い、意欲向上できるよう努めている。風通しがいい職場づくりを心がけ、職員が掲げる目標を職員が遂行できるよう進捗状況を確認し向上心を絶やさないように努めている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修も積極的に参加したり、事業所内の研修部会が中心となりその時のテーマの研修を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3カ月に1回にリーダ会を行い社外の同業者との交流を図っている。情報交換 意見や提案をする場を作りサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様からのお話を聞き、ニーズや困っていること、不安なことなどを把握するようにしている。信頼関係を気付く為 自ら歩みよるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様 来訪時には 近況報告を行い密に相談させて頂いたり、ご家族様のお話にも耳を傾けるようにしている。家族会や行事の外出企画にも投げかけを行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要とするサービスを見極め他のサービス利用も考えた上での支援や対策をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員というだけでなく、共に暮らす者同士として同じ目線で共に過す関係を気付いている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との良い関係を築くようにしっかりと報告、相談を行っている。来訪時はお茶をお出して歓迎させて頂きご本人様の近況報告をしたり日常の写真を送付している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの土地や思い出の詰まった場所へ出向きご本人様の大切にしてきたものをずっと継続できるように支援している。	大半の利用者が、垂水区内あるいは須磨区の方であり、利用者の方の地域の方が気軽に遊びに来られたり、近隣の社会資源利用時、利用者と同様顔なじみの方と顔をあわせたりなど、日常的に接する機会を失わない取組がなされている。月1回外部社会資源活用によるボランティア活動への利用者参加によって、新たな馴染みの関係づくりが形成された事例が確認できた。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士気が合う方は日常でも仲良く話したりお互いを支えあう関係性が出来ている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が次のステップに向けて、何か力になれることで求められたときは必要に応じて対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全体でケアプランからご本人様の希望 意向を把握している。又 カンファレンスで情報共有に努めている。	事業所地域在住の利用者が多いため、家族の来訪も多く、家族からのお話を聞く機会も意識して持つよう職員に徹底されている。アセスメント様式では、入居前情報と入居後情報によって作成され、意向や思いの把握、それに対する評価見直しが行われている。職員が日々の支援の中で気づいたり気になった事を記載するカンファレンスノートの内容も活用されている。利用者の希望に沿った、支援計画への反映事例も確認できた。 利用開始時は、情報把握に限界があるので、当面の介護計画とし、利用開始は利用者の直接のニーズ把握に努め、利用開始1ヶ月で、新たな介護計画の作成がなされるなど、希望・意向に添った支援が提供できるよう努められている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報にて把握している。入居されてからの情報はアセスメントで把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課が行えるように職員が声かけ、準備を行っている。散歩や外出や季節やその方の体調をかんがみ支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で話し合いご家族様からは来訪時、電話で相談している。ご本人様とは話しやすい環境作りを行い意向に沿って介護計画を作成している。	日々の気付きが記載される「カンファレンスノート」を活用し、気付きや提案なども含めた記録が残されている。カンファレンスノートで、利用者別の課題や方向性の投げかけと意見聴取なども行われ、ユニット全体でプランに繋がる意見交換や情報の共有が可能な仕組みとなっている。 利用者毎のケアプラン一覧がユニットに用意されており、日々の個人記録簿にもプランに沿った支援実施の有無が記録され、職員全員が支援計画に基づいた支援の提供を意識できる仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録 経過支援記録に記入し情報共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階のご入居者様が1階の洗い物を手伝って下さる等、同じフロアだけではなく柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療面では訪問医、訪問看護、歯科、すみれ治療院の往診をしている。近隣小学校の夏祭りに参加し安全で楽しみのある暮らしを支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される医師に往診して頂いている。月2回の往診以外に体調不良等の連絡を行い指示にての対応は受診をしている。	訪問医、訪問歯科による定期的な受診が行われており、従前からの医師・歯科を利用されている方もある。専門的診療が必要な場合は、家族同行で職員が対応している。看取り対応の訪問医の協力が得られているので、利用者の状況にあわせた対応ができています。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に情報を報告し、アドバイスを頂いている。また平成30年には緊急時やターミナルの研修を行って頂けるタイアップを計画中である。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はお見舞いに行った時に病院関係者と情報交換を行い今後について相談している。	入院時は、情報提供書を用意し、職員同行で対応している。入院中、家族が対応できない利用者の洗濯等は事業所で対応している。退院時カンファレンスに参加し、退院調整を行っている。退院時情報は、かかりつけの訪問医に書類にて提供されている。早期退院支援を心がけている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に日頃からの状況をお伝えし早い段階から話し合いを行っている。家族様のご意向を医療関係者に伝え職員とはカンファレンスを開催しチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応についての指針」について詳しく説明し、対応についての考え方に対し、家族から理解、同意を得ている。終末期においては、訪問医から家族に詳細な説明がなされている。職員は、他の利用者が不安にならないように配慮し、また、細やかな配慮で気配を提供することに努めた。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の指示のもとに行っている。定期的な訓練は行っていないが事故発生後にはカンファレンスを実施し次の対策につなげている。		

自己	者	第	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 非難訓練を行っている。垂水消防署で体験型防災研修に職員が参加し全職員に伝えている。	体験型防災研修に参加し、外部研修報告書により、職員全体が研修内容を共有している。夜間想定と昼間想定との避難訓練が実施されている。地域連携により、地域のブロック長との協力体制が出来ている。ブロック長交代時には、引き継ぎ事項として、事業所との災害連携が織り込まれており、継続性のある協力体制が形成されている。 小学校までの避難訓練も実施し、そこで出た課題に対し避難計画の評価見直しを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄時の声かけ、職員同士での会話の中でも配慮は行っている。(排便はコート、排尿はハルンで統一)	職員に月の目標として、言葉遣いへの注意をあげ、排泄についての言葉遣い取組を行った。接遇マナーの研修も行われている。権利擁護にも配慮し、利用者の尊厳を損なわないよう、また守られるよう取り組んでいる。法人理念でもある、自分が受け入れられる支援かどうかを念頭に、支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の表情 声のトーン会話の中で、思いや希望を汲み取り自己決定しやすいようにコミュニケーションを取っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出時はお声かけにてその方に合わせた時間に散歩等に出掛けている。居室で過される方は、読書 体操等 個々にされている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で出来る方には、ブラシやひげそり等 必要な物の準備を行っている。介助が必要な方には介助を行い身だしなみには十分配慮している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の盛り付け、洗い物を行っている。月2回夫婦でお寿司を召し上がられておられるご入居者様にはお食事を楽しんで頂ける様 環境を整えている。	月に2回、利用者の希望でメニューを決めた昼食や、職員と一緒におやつを作る機会を持っている。お誕生日にケーキを作った事例も確認できた。家事に積極的な利用者は、積極的に洗い物や配膳等を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事量 水分量は記録し 足りていない所は食事 の時間以外に捕食や水分を取っていただいでいる。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は、歯科医からアドバイスを頂き 行っている。ご自身で出来る方には、お声かけを している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の 自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの統計をとるなどして個々に応じた タイミングでのトイレの誘導や、ご利用者様の状 況に合わせたリハビリパンツやパット 夜間のみ リハビリパンツで過していただくなど実践 改善等 を行いながら自立にむけた支援を行っている。	外部招聘によるオムツ研修を行い、自立に向けた支援 に取り組んだ。研修成果により、オムツ利用の軽減等 に繋がられた事例がある。時間帯による排泄の記録を 基に「排泄・水分記入表」により、自立でのトイレ利用 が促進されるよう取り組んでいる。適切な時間帯での 声かけ誘導が可能になり、失禁事例の現象に繋がっ た事例が確認できた。 声かけ時や排泄の表現について、職員間から出た意 見に基づき、月目標に挙げて取り組むなど、プライバ シーに配慮した言葉遣いへの取組事例が確認できた。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後のヤクルト摂取、腹部のねじり体操など 個々のご利用者様に応じた予防に取り組んでい る。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で 曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々にそった支援をしている	午前、午後など希望に応じたタイミングでの入 浴、気持ちよく入浴していただけるような雰囲気 作りや声かけ、入浴時にコミュニケーションをはか るなど入浴を楽しんでいただけるような支援を 行っている。	基本は2日に1回の入浴であるが、利用者の状態に よって概ね週に2～3回の入浴が確保されている。単 独入浴可能な利用者には、できるだけ一人で入浴して 頂き、外で待機する、呼び出しベルの活用等で、安全 確保と共に利用者の尊厳に配慮している。入浴時の浴 室は、施設・カーテン等で不用意なプライバシー侵害 が発生しにくい状態を作っている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状 況に応じて、休息したり、安心して気持 ちよく眠れるよう支援している	状況に応じた日中の休息への声かけ、介助、就 寝時の居室内の室温調整、季節に応じた寝具の 使用 日中の適度な運動など、一人 一人に応じ た安眠や休息への支援を行っている。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員がご利用者様ごとの服薬状況の理解に努め、日々の細かな変化、服薬変更後の変化等も含め職員での情報共有を行い往診DRとの連携をはかりながら調整を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様ごとの性格 得意なこと、好きなことなどの情報を行いながら、家事や音楽、レクリエーションへの参加への声かけ、食レクでのご利用者様の希望メニューで喜んでいただくなど一人ひとりに合った喜び、楽しみを感じていただけるよう支援している。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、散歩や買い物等の日常的な外出への支援を行いながら、ご家族様への協力を呼びかけ、バス旅行へ行く等 ご利用者様の希望に応じた外出支援を行っている。	近隣の社会資源活用や、近所への散歩等、日常的に外出ができる環境と機会を提供している。職員の演出満載のバス旅行は、利用者・家族共に好評で、また行きたいというご意見も多数いただいている。花見等、季節行事の外出も行われている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっていることで安心される方は、ご家族様のご協力のもと個人で所持していただいたり外出時には自身で購入していただいたり職員はお金を持つことの大切さを理解したうえで一人ひとりに応じた支援を行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じご家族様へ直接電話をしていただくなど個々に応じた支援を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除に加え夜勤者がフロア内のイス、手すり、テーブル等の消毒、トイレ掃除など共有空間の清潔、清掃に努め、生活感を取り入れながら希望に応じたご利用者様の製作物を飾ったり季節に応じた飾りを一緒にするなど居心地のよい空間作りに努めている。	居室で滞在するより、共有空間の方が楽しいという利用者も多く、リクリエーション等を特に企画していない時間も、共有空間を団欒の場として利用されている。各居室やフロアには温度計が設置されている。換気にも配慮し、居室・フロア共に定期的な換気がなされている。壁面には利用者が作成した小物や作品、写真等も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が思い思いに過ごしていただけるよう、テーブルやイス等の配置への工夫など環境づくりへの配慮を行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れたものを持ってきて置いていただいたり好きなもの、絵や写真を飾っていたり等 ご本人様や家族との相談をもちながら居心地良く過ごせるような居室への配慮を行っている。	利用者の状態により、フロアの床面を変更し、居心地良く過ごせる為の取組が確認できた。仏壇、ソファー、観葉植物など、利用者思い思いのものが持ち込まれ、利用者自身が住みよい住環境づくりに配慮されている。居室入り口には、利用者家族による装飾や目印など、様々な個性が演出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	週に1回のリネン交換時には安全に配慮した居室内の整備を可能な限りご本人様と一緒にを行う。フロア内では歩行が安定されている方は遠い位置に座っていただくなど安全かつできるだけ自立した生活が送れるような工夫をしている。		